

「食用ほおずきをめぐるスマート農業」

- ◆季節や気象変動の影響が少ない「環境制御型ハウス」や、熟練操縦者に肉薄する「農業機械の完全自動操縦」など、農業に対してITやIoT技術の導入が目まぐるしく進んでいます。
- ◆一方で、新規就農者や後継者の不足といった構造的な社会課題とともに、農業が育んできた様々な文化の継承といった問題も見逃せません。
- ◆本ワークショップでは、主に観賞用で栽培され晩夏から初秋の歳時記の季語だった「ほおずき（酸漿・鬼灯）」の食用品種を、高付加価値化で地域の特産とした秋田県上小阿仁村の事例を中心に、秋田・岩手両県でのスマート農業の実践例や期待される将来像を皆さんで議論したいと思います。

2021年 3月19日（金） 13:00-17:00

@アイーナ4F「アイーナ・スタジオ（予定。部屋が変わる場合あり）」（盛岡駅西口）

定員10名（お申込みは3/12正午まで019-694-3330またはi-mos@ml.iwate-pu.ac.jp）

①イベント名：「ワークショップⅡ（3/19）」②参加方法：会場/ZOOM ③会社名・学校名

④所属・役職 ⑤氏名 ⑥メールアドレス ⑦電話番号 以上をお知らせください

@ZOOM（イベント参加リンクは、別途ご連絡します）

第1部「地域文化『ほおずき』を守る」

<13:05-13:30>

事例発表1 「上小阿仁村で守り育み売る」

たじゅうろう農園長 鈴木 孝明 氏

*高級菓子店「くら吉」（秋田市・仙北市角館等）で大人気の「コアニ・スイーツホオズキ（©くら吉）」を原料とした商品の数々で堅実な売り上げを誇る原材料の生産・供給を行う一方で、高齢過疎の中山間地域に根差した生産農家として、また農業体験を取り込んだ農家民宿経営者として、後継者育成も視野に入れつつ日々地域の未来を考えている現場から、真に必要なスマート農業とは？地域を元気づける「百笑」の考えとは？について、語っていただきます。

<13:35-14:15>

事例発表2 「岩泉町で守り育み売る」

有限会社早野商店 取締役 早野 崇 氏

*岩手内陸部に位置する岩泉町で、地場農産物と海産物の加工から販売までを手掛ける早野商店。東日本大震災津波から10年を迎える今年、「三方よし=買手よし売手よし地域よし」を実現させ、岩手県立大学の学生も巻き込んで「浅草ほおずき市」への出展や、ブランド「ほおずきんちゃん」を築きあげる手腕に着目しながら、岩泉の農業文化や震災からの復興状況についてもお話しいたします。



左：上小阿仁村「こあびょん」 中：早野商店「ほおずきんちゃん」

右：岩手県「エコはっちゃん」

第2部「北国でのスマート農業」

<14:25-15:05>

事例発表3 「農工連携の可能性」

公立大学法人秋田県立大学 教授 飯田 一朗 氏

*今年4月、秋田県立大学大湯キャンパスでロボットや情報通信技術（ICT）を集積した「次世代農工連携拠点センター（仮称）」が始動します。AIを駆使した技術・知識の継承など研究が進むと期待される中、「農工連携」の可能性、課題や問題等解説いただきます。

<15:10-15:50>

事例発表4 「稼ぎ誇れる農業を」

株式会社いわて若江農園

代表取締役 若江 俊英 氏

*農業未経験、全くの異分野から農業に飛び込んで、創意工夫を重ねてトマト農家に転身したご自身の経験談など、新規就農者に向けた熱いエールを送っていただきます。

<16:00-16:55>

質疑応答・意見交換会

アドバイザ 岩手県IT連携コーディネータ

元一関高専教授 佐藤 清忠 氏

*元一関高専教授 博士（工学）。盛岡周辺で地域課題解決、IoT機器の普及活動を目的とした連携活動を展開中。特技はイラスト（左の岩手県『エコはっちゃん』）。RaspberryPiを使った簡易農業センサやアナログ電子回路に興味のある方のアクセス大歓迎

アドバイザ 岩手県農業研究センター

上席専門研究員 山口 貴之 氏

*博士（農学）。岩手県のスマート農業研究者として、各種農業機械の自動操舵技術評価、ドローンの活用などを牽引。専門家としての幅広く深い知見から、農業文化の伝統と未来の姿に向けたコメントをいただきます。